

# 聖路加国際病院 耳鼻咽喉科



## 専門研修プログラム

2006年4月1日版

### 耳鼻咽喉科プログラム

#### ・GIO

いついかなるときも、生命や機能的予後にかかわる疾患と緊急を要する 耳鼻咽喉科専門医としての基礎的な知識、考え方、および手技を身につけ、初期診断、鑑別診断、処置および手術を行うことができる。

#### ・SBO

1. 患者・家族との適切なコミュニケーションが取れる。
2. 患者個人情報の重要性を知り、患者本人の意思を尊重する姿勢がある。
3. 患者本位の医療を知り、治療効果だけでなく、患者満足度、QOL、医療経済、セカンドオピニオン、情報公開をめざす姿勢を理解し、実行する。
4. 耳鼻咽喉科の診察では耳鼻のどだけでなく、頭頸部外科を行う意識を持つ。
5. 研修医(ジュニア・シニアレジデント)の研修指導ができる。
6. 患者の訴えをまず受け止める問診を行い、患者の問題点を把握するとともに、患者の訴えないことにも注意を払い、質問を加えて情報を収集する。
7. 耳鼻科の診療では視診と触診が重要だが、さらに内視鏡を用いて他科では観察のしにくい部位の診察と処置ができる。
8. 診察後には必要な検査を選んで組み合わせることが必要であるが、その必要最小限の項目を選択できる。
9. 外来診療、病棟受け持ち、手術が行える。
10. 標準的な医療をめざし、ガイドライン、EBM、予防医療の理解し、実行する。
11. 聴力検査、頭部CT、MRIなどの検査結果を理解して説明できる。
12. めまい、呼吸障害、嚥下障害、音声障害、アレルギー、病巣感染、など他科との連携が必要な病気について判断できる。
13. 患者に診断と治療法を説明し、今後の見込みについて理解させる。
14. 救急医療において鼻出血、呼吸困難、めまいなどの対処方法がとれる。

#### ・LS1 OJT

- 診療: 患者の診療にあたり、多くの疾患の診療を経験し適切な診断、患者への説明、必要な処置ができるように進歩する。
- 外来: 外来初診患者の問診を十分に行い、必要な情報を聞き出してチャート記載をする。診断治療に問題がある場合は上級医に相談できる。

- 手術: 助手や執刀医として十分なレベルでの手術を行う。耳鼻咽喉頭、頸部の手術を一人で行う。

手技・検査等: 内視鏡で鼻内、咽喉頭の観察手技を習得する。また耳内を顕微鏡で観察し、耳垢除去や外耳道異物除去操作を習得する。さらに鼓膜切開、鼻出血の止血操作、咽頭異物除去、扁桃周囲膿瘍の切開術、アレルギー性鼻炎に対する日帰り手術を修得する。

<短期麻酔科研修> S1で麻酔科を2ヶ月ローテーションする。

## ・LS2 勉強会

### <回診・カンファレンス>

- 入院患者の十分な把握を行い、カンファレンスで討議をする。
- 退院時にはサマリーの記載を行う。

#### 週間スケジュール

月曜日	8:30-9:00	入院患者の回診
	9:00-13:00	外来診療
	13:00-17:00	月手術参加または小児専門外来
火曜日	8:30-9:00	入院患者の回診
	9:00-13:00	外来診療または手術参加
	13:00-17:00	アレルギー専門外来
水曜日	8:30-9:00	入院患者の回診
	9:00-13:00	外来診療または手術参加
	13:00-17:00	手術参加または補聴器専門外来
木曜日	8:30-9:00	入院患者の部長回診
	9:00-13:00	外来診療
	13:00-17:00	手術参加または小児専門外来
	17:00-18:00	放射線科との合同カンファレンス
金曜日	8:30-9:00	入院患者の回診
	9:00-13:00	外来診療または手術参加
	13:00-17:00	副鼻腔炎専門外来または補聴器専門外来

## ・EV

- 自己評価: 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医の申請書に準じて経験症例、手技を記載し、到達度を確認する。
- 指導医による評価: 半年に一度部長による面接を実施し、目標の設定と上司からの評価、進路の相談等をおこなう。